



日本女子体育大学

松徳会 東京支部だより

No.36

SHOUTOKUKAI TOKYO BRANCH NEWSLETTER

2024年4月30日発行

ゆるやかに始動!!

東京都支部長 木津 美佳

東京都支部会員の皆様におかれましては、お元気にお過ごしのことと存じます。

年初より大きな犠牲を伴う出来事がありました。「令和6年能登半島地震」により被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

昨年10月に二階堂学園創立百周年記念式典、松徳会80周年記念事業に参加されました多くの卒業生とお目にかかることが出来ました。支部活動では健美祭でコロナ前のようにバザーを行い、11月には講師をお招きしてポッチャを役員研修として実施しました。徐々にではありますが、会員の皆様と共にいろいろな活動にチャレンジして会員間の交流を図っていきたいと思います。

8月に開催されます第39回松徳会セミナーでは東京都支部がお手伝いいたします。役員一同気持ちを引き締め臨みたいと思っています。

東京都支部の活動にご協力頂ける方!ご連絡をお待ちいたしております。



創立百周年記念式典

総務 田村 幸子

令和5年10月25日学園創立百周年記念館において、創立百周年記念式典、演技発表会が開催されました。

石崎朔子理事長は、学校の沿革他、学園施設の不十分さを解消する百周年記念館の設計、施工についての思いを述べられました。また、松徳会へ綴帳の寄付、寄付金のお礼がありました。

来賓の祝辞は、文部大臣からの祝辞（代読）日本私立大学教会会長 玉川大学学長の小原芳明氏は、大正デモクラシーの時代に軍の体操とは異なる体操を取り入れたこと、建学の精神の継承や、現在は個性ある4学科編成を行い、多様性社会で日女 の精神に培われた女性が活躍していると述べられました。日本体育大学理事長の松浪健四郎氏は、トクヨ先生は着物の時代に服装を工夫されていること、クリケットとホッケーを日本に持ち込み普及したことに対して敬意を表しなければならないと述べられました。世田谷区長の保坂展人氏は、地域と日女の関わり、行政への協力のお礼が述べられました。バーグマン氏の祝辞や東京都知事の小池百合子氏の祝電が読み上げられました。

山下松徳会会長より奨学資金2000万円、綴帳の目録贈呈。桐の会副会長より記念品寄贈がありました。

特別功労者として6名の方たちが表彰されました。(村山茂代氏・穴水恒雄氏・山川純氏・三角哲生氏・二階堂清寿氏・金子明友氏)

最後に、これから110年120年…学園の努力はもちろんですが皆様のご指導ご鞭撻をお願いしたいとの石塚浩理事の挨拶で閉会となりました。

式典後、学生による演技発表会と出演者全員によるエンディング作品が披露されました。



テーマ——Keep the Legacy for the Future (壹百年のレガシーを未来へ)

令和5年10月26日(木)に、100周年記念事業として

「Keep the Legacy for the Future(壹百年のレガシーを未来へ)」をテーマに記念シンポジウムが開催されました。以下その概要です。

基調講演

タイトル 「プラチナ社会と女性の活躍」

演者 小宮山 宏氏(株式会社三菱総合研究所・理事長)

シンポジウムⅠ

タイトル 「女子体育の温故知新 ～本学部名誉教授が振り返る～」

演者 山川 純氏(運動生理学の立場から)

金井 芙三枝氏(ダンス教育の立場から)

石崎 朔子氏(競技スポーツの立場から)

シンポジウムⅡ

タイトル スポーツ・ダンスの多様性と未来

演者 小平 奈緒氏(相沢病院職員・信州大学特任教授)

三東 瑠璃氏(Co.Ruri Mitos 主宰 ダンサー・振付家)

ヨーコ・ゼッターランド氏(日本女子体育大学准教授)

増田 明美氏(大阪芸術大学教授、スポーツジャーナリスト)



山川 純氏



金井 芙三枝氏



石崎 朔子氏

小宮山氏の基調講演では、“サステナブルで希望のある未来社会を築くため、エコで、資源の心配がなく、老若男女がだれでも活躍し、心もモノも豊かで、雇用のある社会”を「プラチナ社会」と提言し、

女子スポーツはこの社会の一端を担っている。スポーツに関わっている学生さんたちの力を存分に発揮していただきたいと、力強い言葉を学生たちに掛けていらっしゃいました。

シンポジウムⅠでは、まず、山川純先生が運動生理学の授業でのエピソードや、運動生理学という分野の必要性、ずっと取ってきたデータが今のスポーツに活かされて向上しているのだ、とデータ収集の大切さをお話してくださいました。続いて、金井芙三枝先生が、戦時中は外国語が使えずダンス用語を日本語に代えて表さなければならなかった苦労話や、戦後の教育改革で江口先生の創作法が取り入れられるようになって、初めて教育の現場に「ダンス」と



という言葉が使われるようになったこと。そして、それが現代のダンスに繋がっているということをお話してくださいました。最後に、石崎朔子先生が、競技スポーツの立場から本大学の50年の歩みをお話してくださいました。東京2020大会までに本大学から多数の代表選手が輩出されたこと。国際大会で活躍するには能力的なことはもちろん、勝ちたいという強い意識をもって日々練習に臨むべきであること。また選手だけでなく優秀な指導者や環境が整った施設も必要であることなど、今後日本がスポーツ大国となっていくためにはまだまだ強化していくべき部分があるのだというお話でした。時間制限がある中での先生方の御講演は、私たちの学生時代の講義を彷彿とさせるものでした。

シンポジウムⅡでは、日本を代表する素晴らしいアスリートを迎え普段では聞くことができない貴重なお話を伺いました。スピードスケート元日本代表、平昌オリンピックで日本女子スピードスケート史上初の金メダルを獲得した小平奈緒氏は、選手として生活習慣、競技、身体の実感を正しく知ることの大切さを強調されていました。自分の体の声に耳を傾け、体調の変化に敏感になり、今の自分に必要なものは何か、不必要なものは何かを考えながら生活する。食べ物一つでも、体のことを最優先に考えて食べ、食品添加物は一切摂らない。ビタミンDが必要とあれば、日焼け止めクリームを減らして日光に当たる

ように心がけるなど小さなことでも、体に良いと思えば実践し、その結果が競技力の向上につながったそうです。「究極の滑りは健全な心身に宿る」と締めくくった言葉は私たちにも当てはまる名言だと思いました。

本大学卒業と同時にダンスカンパニーを立ち上げ、国内外でダンサーとして活躍されている三東瑠璃氏は、「生きることが躍ること」と言い切り、一つのことに邁進する姿勢に圧倒されました。ヨーコ・ゼッターランド氏は現在本大学の准教授を務めておられます。幼少時よりバレーボールを始め、バルセロナ、アトランタオリンピックで活躍されました。現在は、指導者の育成に力を入れられており、グッドコーチに求められる思考と判断、態度や行動、知識や技能の必要性を説かれていらっしゃいました。最後に、陸上長距離で高校生の頃よりその才能を開花させ、マラソン競技ではオリンピックにも出場された増田明美氏の笑いの絶えない楽しいお話を伺いました。増田氏は、走ることは楽しくて、みんなを笑顔にしてしまう。つまり、スポーツは実践する人はもちろん、見ている人も支える人をも明るくする魅力あるものなのだとキラキラ輝く笑顔でお話しされていました。

今回のシンポジウムに参加して、改めてスポーツの大切さ、スポーツの魅力を感じるとともに、未来の子供たちにもその素晴らしさを伝えていかなければならないと思いました。(研修部)



松徳会より寄付された緞帳



百周年記念館

懐かしい 学生時代



全力で走り続けた生活

昭和45年卒 小林 祐子

私たちの入学メンバーは、全国インターハイの優勝者や入賞者が多く、グラウンドも活気にあふれていました。

教員志望や他の目的をもった部員もいる中、大学2年時の関東インカレでは、日大に次いで総合2位となり全員で喜びを分かち合いました。

部員同志の交流もよく、選手や選手以外との壁もなく、今も親交を深めております。

私の短大体育科時代

平成元年卒 金子 久子

1981年短大体育科専攻に入学した私。部活動との両立は大変でした。でも、毎日の実技や講義は、嵐のような速さで進むも、濃厚な授業の連続でした。

私は、学友たちと共に、その一つ一つに泣いたり笑ったり感動したりと、充実した学生生活を送りました。

その年の創立60周年記念の体育祭と演技発表会で、私たちは、エメラルドブルーのレオタードに身を包み、「田毎の月」を踊る機会に恵まれました。日女体の学生であることを、実感する体験となりました。

スキー実習の思い出

昭和46年卒 糸田 加代子

菅平高原でスキー実習があった。レベル分けをされ、昼食時に食堂へは、早く実習が終わった順に並んだ。長い列ができた。配膳の方が叫んだ。

「一人一皿です。」

「後ろに並んだ学生さんの分がもうないです。」

どうやら、早く並んでしらっとお変わりした輩が何名もいたようだ。いつも腹を空かせていた若いころの笑い話。

この年は、雪が少なくゲレンデは土が見えていた。先生が叫ぶ

「転ぶな～雪が削れる！」

「そんな～」

と初心者の我々。

夜の演芸会は誰より張り切って大喜利で盛り上がった。ああ、青春！涙を流して笑える友が今でもいる幸せ。



フェンシング部の仲間たち 写真提供：糸田 加代子様

かけがえのない時間

平成26年卒 稲岡 南

大学入学後、私はソングリーディング部 GRINS に入部しました。入部後は、憧れの先輩方との練習が楽しくて仕方なく、無我夢中で部活動に打ち込みました。時には厳しい練習や辛いことも沢山ありましたが、それ以上に自分が得るものが大きくまた、どんな時もそれを一緒に乗り越えてくれた仲間がいたから最後までやり抜くことができたのだと思います。この GRINS で過ごした4年間はかけがえのないものであり、私の一生の宝物です。



写真提供：稲岡 南様

女子体育大学ならではの歓声

平成6年卒 鎌田 麻美子

日女体大剣道部には、自分の力を活かし、剣道部創部以来最上位となる結果を残すために入学。3年時までに結果を残せず、4年目を迎えた。最後の関東女子学生剣道優勝大会で、私は大将を務め、準々決勝で関東4連覇を目指す男女共学大学と対戦。相手大学の男女学生の大歓声の中、大将戦にもつれこんだ。その大将戦で私が勝ち、ようやく結果を残せた時の女子体育大学ならではの女子だけの歓声は一生忘れられない思い出となった。

ただ歩く

昭和43年卒 高倉 洋子

私の思い出は、入学式の次の日から、短パン姿で毎日毎日歩くだけ。♪タンタンタンのピアノで前に歩くだけ、何も勉強しません。朝から午後3時ごろまで歩くのみ。なんで勉強しないの？でも、誰も文句言わない。何をするのかな？

何日かすると、前に歩いていたら、そこで前転する。側転する。不思議でした。

何十日かたってから、国立競技場で全員が踊る。それが、「朝日体操祭」という競技でした。

5月中旬まで歩くこと、みんな揃って踊ることの素晴らしさ、楽しさを知りました。2年間踊ることに携われたことが私の財産です。



卒業式友人と 写真提供：高倉 洋子様

日女での4年間

令和5年卒 中澤 鞠江

4年間あるはずだった大学生活も、新型コロナウイルスの影響で、キャンパスライフは、約2年間しか過ごすことができませんでした。社会人になり、もっと日女生活を楽しみたかったと後悔しています。

それでも私にとってキャンパスライフを過ごせた2年間は、とても濃い時間でした。特に、教職課程の授業は、今でも印象に残っています。体育科教育法でのMTでは、教員になったつもりでクラスの子に生徒役をしてもらい授業をしてもらいました。たくさん苦戦して思い通りにならないことばかりでした。

一番のメインは、教育実習。行く期間が同じ人とは、たくさん連絡を取り合って、反省し合って次の日に意気込みを語り合い3週間やりきることができました。今でも本当に心強い味方です。先生方にもたくさんご指導いただき、とても感謝しています。

日女の学びが、今の私の教員生活に生きていることは間違いありません。日女の名に恥じぬように今後も、学び続けていきます!!!

母校へ行って思ったこと

昭和43年卒 佐藤 孝子

東京で同窓会があった時、きれいになった母校を見学しました。私は昭和40年代でしたからびっくりしました。昔はプールは外、今は室内こんなに整備され羨ましい限りです。

学生さん達はお金を払って入学しています。おいしい食事が提供されているのでしょうか？某体育大学では専門家に依頼して、学生達に評判を得ている。とテレビで拝見しました。少子化の時代です。学生食堂の見直しを是非して頂きたいと思います。

今後の学生を呼ぶ手段として必要な事だと思います。

部活に打ち込んだ4年間

令和2年卒 前川 紗楓

私の学生時代の思い出は、部活動です。私はライフセービング部に所属していました。大学生活4年間で、インカレで優勝をする事を目標に練習に打ち込んでいました。部活動での練習や、個人的に大学のトレーニングセンターを利用して目標に向けトレーニングを積んでいました。学生最後のインカレで優勝をする事は出来ず、2位という結果で、目標は達成する事は出来ませんでしたがとても良い思い出になりました。



写真提供：前川 紗楓様

教授と一体だった

学部1期生 鯛谷 和代

入学生42名は「体育を科学する」ことから教わり、学ぶことの喜びを知りました。いつも、それぞれは研究室で教授の側で、いい大学にしようと、朝早くから夜遅くまで討論をしてました。

就職先が決まると、大学で助手になる人、公立・私立の高校。中学校の教諭になり、各地で活躍しました。『女子体育は国力』力強さは、美しく、優しさがあると今でも思っています。

80歳になった今も「保育原理」の講義をさせていただいています。



真夜中の非常ベル

昭和43年卒 佐藤 弘子

点呼が終わり消灯をし、眠りにつくと、真夜中に突然、非常ベルが鳴り、何が起きたのかわからずボーとしていると、寮生数名が、バットや箒を持ちすごいスピードで廊下をダッシュして行ったのです。さすが日女体生。

数分後、

「捕まえてはいけません」

「捕まえてはいけません」

と、寮監の村上先生の放送が入り、ダッシュした寮生は何もなかったかのように戻ってきたのです。

今から50年以上も前、紫苑寮で起きた不審者撃退の様子です。



村上先生・恵遍主先生と同室の仲間たち

写真提供：佐藤 弘子様

打てば響くを目指して

平成13年卒 久保田 美和

バレーボール部に入部し、2年からマネージャーに。ひたすら選手をマッサージし、テーピングの技術を学ぶ。また、監督・コーチと選手、選手同士の緩衝材になる術を修得。

1999年大阪府立体育館での全日本インカレ優勝は、勝ち進むにつれチーム力がどんどん向上し、最後まで負ける気がしない貴重な体験。逆に4冠目前でインカレ優勝を逃した最終学年。歓喜と惜敗、それまでの努力をチームで重ねた経験は、今なお自身の糧になっています。

ボッチャ研修会 (研修部)

2023年11月11日(土)に、東京都支部の役員研修会として、豊島区スポーツ推進委員の佐藤妙子氏を講師に迎え、「ボッチャ体験教室」を行いました。

当日は、13名の役員が参加しました。初めに、ボッチャについてその特性やルールを学びました。ボッチャは究極のバリアフリー競技であり、障がいの有無にかかわらず同じコートで競うことができること、ボールはマイボール制で、大きさと重さが決まっているだけで外側の硬さや材質は自由であることなどを学びました。

その後、簡単なルール説明があり、「とにかく実際にやってみた方が早いです」ということで、4チームに分かれて試合をしました。1チームが2試合ずつ行いましたが、さすがに全員体育会系、すぐにルールを飲み込み、2試合目にはそれぞれ作戦まで立て始めたのには、佐藤講師もおどろいていらっしゃいました。

力が有りすぎるがゆえに飛びすぎてしまうボール、微妙なコントロールの難しさ、先の先を読んで投げる位置を決めなければならないなど、ボッチャの難しさを体験するとともに、年齢に関係なく、いつの間にかチームが一丸となって楽しんでいることが、ボッチャの一番の魅力であったように思います。



バザー



令和5年10月28日(土) 29日(日) 東京都支部は、大学のNゼミ室をお借りして、バザーを開催しました。

パウンドケーキ、お饅頭、おせんべい等食べ物が出店できるようになり、大繁盛でした。



今年のバザー

【日時】 令和6年10月26日(土) 27日(日)
【場所】 大学北館1階Nゼミ室

東京支部だより
ご覧ください



松徳会本部のQRコードから「東京支部だより」がご覧いただけます。

令和6年度 東京都支部総会について

【日時】 **令和6年6月22日(土)**

受付 10:30 総会開始 11:00

【場所】 日本女子体育大学 学生会館2階
総会後交流会を予定しています。
是非ご参加ください。



ダンスプロデュースによる演技



交流会の様子

令和5年度 決算報告

令和5年度 東京都支部 決算報告

令和5年4月1日～令和6年3月31日
単位:円

I 収入の部

科 目	5年度予算	5年度決算	差異	備 考
1 会 費	280,000	336,000	56,000	168名
2 事業収入	100,000	138,363	38,363	バザー売上金
3 雑収入	71,000	108,200	37,200	寄付 Tシャツ売り上げ
収入合計	451,000	582,563	131,563	
前年度繰越金	76,158	76,158	0	
総収入合計	527,158	658,721	131,563	

II 支出の部

項 目	5年度予算	5年度決算	差異	備 考
1 会議費	76,000	69,000	7,000	
1) 会場借用費	5,000	0	5,000	
2) 交通費	70,000	69,000	1,000	役員交通費
3) 会議費	1,000	0	1,000	
2 事業費	420,000	439,755	19,755	
1) 印刷費	150,000	183,150	33,150	東京支部便り・振込用紙印刷費
2) 通信費	190,000	201,715	11,715	東京支部便り郵送費
3) 各係運営費	30,000	12,590	17,410	各部活動費
4) 事業運営費	30,000	42,300	12,300	バザー・総会運営費
5) 講習会費	20,000	0	20,000	
3 渉外費	13,000	13,000	0	
1) 慶弔費	10,000	10,000	0	健康祭お祝い金
2) 渉外費	3,000	3,000	0	トクヨ先生を顕彰する会年会費
4 需用費	15,000	11,632	3,368	
1) 備品費	1,000	0	1,000	
2) 通信費	10,000	10,982	982	総会資料発送
3) 印刷費	3,000	0	3,000	
4) 雑費	1,000	650	350	振込手数料
5 積立金	0	0	0	
6 予備費	3,158	0	3,158	
支出合計	527,158	533,387	6,229	
次年度繰越金	0	125,334	125,334	

監査の結果、適正であることを認めます。

令和6年4月13日

会計 三浦 栄子 伊藤 聖子
会計監査 鍋谷 和代 金子 久子

令和6年度 事業・活動計画

日程	東京都支部	松徳会	大学
4月	1日 月	第1回常任理事会(オンライン会議)	
	3日 水	令和5年度会計監査	入学式
	5日 金	第2回常任理事会(オンライン会議)	
	9日 火	評議員会議案書発送	
	12日 金		トクヨ先生墓参
	13日 土	第1回役員会・会計監査	
	30日 火	東京支部だより 36号発行	
5月	12日 日	評議員会(改選)	
	16日 木	第3回常任理事会(オンライン会議)	
	18日 土	第2回役員会	
	19日 日	新旧理事会(オンライン) 第1回理事会	
	26日 日		オープンキャンパス
6月	1日 土	清寿先生墓参(松徳会役員)	
	9日 日		オープンキャンパス
	10日 月	松徳会会報第66号発行	
	22日 土	支部総会	
7月	14日 日		オープンキャンパス
	27日 土	第3回役員会	
8月	3日 土	第39回松徳会セミナー(第1日目) 総会・交流会	
	4日 日	第39回松徳会セミナー(第2日目)	オープンキャンパス
9月	1日 日	学年幹事会(対面・オンライン併用)	
	28日 土	第4回役員会	
10月	5日 土	第4回常任理事会(オンライン会議)	
	12日 土		総合選抜(I)
	18日 金	会計中間監査	
	19日 土	第5回役員会・ バザー値付け	第2回理事会(オンライン会議)
	25日 金	バザー会場設営・搬入	
	26日 土	健康祭バザー	健康祭
	27日 日	健康祭バザー	
11月	16日 土	第6回役員会	第5回常任理事会(オンライン会議)
	17日 日		学校推薦選抜
1月	18日 土		第6回常任理事会(オンライン会議)
2月	1日 土	第7回役員会	
	6日 木		一般選抜
	15日 土		第7回常任理事会(オンライン会議)
3月	3日 月		総合型選抜
	8日 土	第8回役員会	
	15日 土		卒業・修了式
	22日 土	第3回理事会(オンライン会議)	

※役員会開催時間は13:00から16:00とし、場所は日本女子体育大学研修会館とする。
※諸状況により日程などの変更も有ります。

編集後記

二階堂学園百周年・松徳会創設80周年を終え、脈々と受け継がれてきた日女体精神の伝統と歴史の重みが、ひしひしと伝わってきました。
人生100年時代、健康で充実した人生を送るためにも、日女体の役割は大きく、増々必要とされるのではないかとの思いが湧き上がってきました。

【発行者】 日本女子体育大学 松徳会 東京都支部 〒171-0022 東京都豊島区南池袋3-14-9 木津美佳
TEL・FAX/03-3983-4075 メール / kizu@sky.plala.or.jp